

県大生 三原村PR策磨く 村民と意見交換



村のPRについて意見を交わす高知県立
大学生と住民たち(三原村中央公民館)

【宿毛】幡多郡三原村で地域づくりの研究、実践に取り組む高知県立大学の学生らがこのほど、村中央公民館(宮ノ川)でPR動画制作などの活動を報告し、磨き上げに向けて住民と意見を交わした。

県大社会福祉学部の田中きよむ教授のゼミ生は、2015年度から住民アンケートや意見交換を踏まえ地域課題を検証。これまでにオリジナルの健康体操や応援歌を作るなどしてきた。

10日はゼミ生10人と住民

ら約30人が参加。学生が星ヶ丘公園や五社神社などで撮影した3分のPR動画と、同神社で行われる総社祭の歴史を紹介するパンフレットの試作品をお披露目した。

住民からはパンフに伝統芸能「猪舞」の写真や載せたいとの要望や「動画に村民のインタビュがあるのもっと見たくなる」との声も。田中教授は「意見を取り入れて、地域と共がいいものを仕上げていく」と話していた。

(坂本 出)